豊田市の小中学校の校歌から見る郷土との関わり

愛知大学 地域政策学部 地域政策学科
まちづくりコース4年 岩崎ゼミナール
市川志織

1. 研究背景と目的

校歌に含まれる山や川などの地域環境は、同じ市内でも異なる。市内の校歌に詠まれる景観に地理的特性があるのか気になった。

そこで、本研究では筆者の出身である豊田市内の小中学校を対象に、校歌に詠まれる河川と山岳の地理的特性を考察すること、校歌に地域環境が詠み込む意義を考察すること、以上の2点を目的とする。

2. 校歌と地域の関わり

豊田市立浄水小学校校歌の作詞を担当した梅村錞二氏の話を聞いて、学区内の景色や地域の雰囲気を校歌に詠んでいることが分かった。校歌には、教育目標や地域の歴史など生徒が歌うことで知ってほしい部分と、生徒が歌うことを通して親や地域の人々に伝えたい思いの、2つの局面があるのではないかと考える。

3. 校歌の地理的分析

3-1. 分析方法

校歌の収集は、学校へのアンケート、卒業生への聴き取り、文献からの引用の3通りの方法で行い、103校中集まった94校（小学校67校、中学校27校）の校歌詞から河川、山岳の地理的特性を地理情報システム（以下GIS）を用いて分析する。

3-2. 校歌と河川

94校中6割に当たる61校が校歌に河川を詠んでいた。河川を詠んでいる学校は、その河川沿いに位置していることが分かった。そして、流れている範囲が広い程校歌に詠む学校数も増えている。校歌に最も詠まれている矢作川は豊田市内を縦断しており、さらに学校数の多い市街地を通っている。市内を流れる部分だけで考えると、大きな河川ほど、校歌に詠む学校は多くなると考える。

また、校歌に詠まれていない河川は、市内を流れている部分が短いものが多い。これは、河川を教訓として表す際に、小さな河川よりも、規模の大きな河川を詠む方が好まれるのではないかと考える。

3-3. 校歌と山岳

94校中約7割に当たる70校が校歌に山岳を詠んでおり、これは河川よりも多い。校歌で歌われている山は①遠方からでも見える山②特定の地域で見える山の2種類に分類できる。

①は標高が高く広範囲の学校で歌われている。標高が高いということは、遠くからでも見やすく、その分歌っている学校数が増えている。周囲が平地の山は、市街地の学校の校歌を中心に歌われている。そして、広範囲で見られるということは、多くの地域にとってシンボルのような存在であり、その雄大さを教育目標と合わせて歌いやすいと考える。

②は①に比べて標高の低い山が多い。校歌に詠む地域環境によって他校との差別化を図るという考えがあるように、②は特定の地域でしか見えない分知名度は低いが、他の学校では詠まれていないため差別化になる。

4. まとめ

GIS分析により、河川は学校との距離が、山岳は学校からの見え方が関係していることが分かった。そして、河川は水運業、山岳は信仰の対象となった歴史があることから、校歌を歌うことは地域の歴史や風土を伝える役割もあるのではないか。

研究を通して、校歌は学校に通う生徒だけでなく、生徒を育む親や地域をも包含する歌であると思った。そして、地域の風土や歴史は生徒達の根幹を形成するものの一つであり、中でも山河は、長い歴史の中で変わらない姿でそこに存在している。地域環境を歌い込むことで、郷土愛を育むことができるのではないだろうか。